

事案名	千葉県・千葉市（旧陸軍演習場）の事案（千葉県12-6-1）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『千葉日報』昭和37年8月24日〔1〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査依頼について（回答）」平成15年10月15日〔6〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「『国内における毒ガス弾等に関する調査』の調査依頼について（回答）」〔A1〕 ・旧軍毒ガス弾等についてのアンケート調査結果（元陸軍習志野学校第3中隊・伍長）〔A2〕 ・証言（元陸軍習志野学校第3中隊・伍長）〔A3〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第8回）」資料8〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>千葉県千葉市においては、昭和37年にイペリット弾9発が発見され、そのうちの1発を解体した運転手2名が被災している。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和37年8月21日に、千葉市の旧陸軍演習場跡地から住民が掘り出した迫撃砲イペリット弾9発のうち1発を譲り受けた運転手2名が、佐原市で解体して被災した〔1〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市の旧陸軍演習場跡地は農場になっており、過去に不発弾の発見事案がある。農場には灌漑用の井戸が一本あるが、飲料水は県営水道を利用している〔6〕。
新たな情報	<p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口42連隊（後に110部隊）から分遣兵として昭和20年7月に習志野学校に派遣された初年兵は、「終戦後に配属先の習志野学校から上官とともに軍用トラックにより、下志津演習場へ行き、毒ガス弾の処理を行った（1日のみ）。処理方法は、迫撃砲12門（間隔約50m程度）を扇状（確実ではない）に並べ、連続して発射した。爆発は起こらず、地面にめり込ませる状態で処理した。発射した砲弾には色付の鉢巻塗装は無かった。迫撃砲の到達距離は、火薬を1つしか入れなかったため、あまり遠くまでは飛ばしていない（射程500m程度であった）。着弾目標は、決めていなかった。処分した場所については、土地勘もなく目印がないため不明。ただし、処理作業をしていると右手の方で盛んに飛行機の離着陸が見えた（距離不明）。また、右手後方（距離不明）では、地面に溝を掘ってドラム缶の液体を流し込む作業

が見えた。習志野学校内で古兵が3000発を処分すると話していたのを聞いた。毒ガス弾の名称は、イペリットとルイサイトという種類と聞いた。処分に要した日数は不明。また、ガス弾の訓練によりやけど状の症状を負った兵士を複数見た」と証言している〔A1〕。

- ・元習志野学校の伍長（第3中隊）は、伝聞情報として、「2中隊の自動砲たまは志もせず原に打ち込んだ由」と記しているが〔A2〕、これについては、当時同僚から迫撃砲（毒ガス弾）を廃棄するため下志津原の沼に撃ちこんだと聞いた、と証言している〔A3〕。

その他情報

- ・平成16年11月に環境省が実施した千葉市及び四街道市で行った22検体の地下水調査の結果、毒ガス成分は検出されなかった〔A4〕。

<p>事案名</p>	<p>千葉市（旧陸軍防空学校）の事案（千葉県 12 - 6 - 2）</p>
<p>フォローアップ調査資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『千葉日報』昭和45年6月9日〔2〕 ・『毎日新聞』昭和45年6月9日〔3〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔4〕 ・「旧軍毒ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔5〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査依頼について（回答）」平成15年10月15日〔6〕
<p>追加資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A1〕 ・「学校歴史（旧陸軍防空学校）」〔A2〕 ・『小仲台住宅地中障害物確認調査業務 報告書』（平成16年10月）〔A3〕 ・「国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会（第8回）」資料8〔A4〕
<p>平成15年度フォローアップ調査報告書の要約</p>	<p>昭和45年には、イペリット缶8個が発見され、ガスがもれていた小型4個は現場で処理され、大型4個はコンクリート詰めにして処理された。また、同じ時期にイペリット容器4本を自衛隊が処理したとの情報がある。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和45年6月5日から6月8日にかけて、陸軍防空学校跡地の会社職員宿舎建築現場で基礎工事の掘削中にイペリット缶8個（直径43cm、高さ70cmのもの4個と家庭用消火器大のもの4個）を発見した。同年6月8日午後、自衛隊の調べでイペリットと判明し、缶の腐食によりガスがもれていた小型の4個については現場で処理した。残る大型4個についてはコンクリート詰めにして処理した〔2〕〔3〕。発見されたのはイペリット缶4本とその他で、コンクリート密封して海中投棄したと記載されている〔4〕。 ・昭和45年6月8日から12日にかけて、イペリット容器が4本発見された〔5〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸軍防空学校跡地でイペリット缶が発見された場所の付近は、昭和46年5月から会社職員宿舎となっている〔6〕。

<p>新たな情報</p>	<p>その他情報</p> <p>(1) 陸軍防空学校における毒ガス弾等に係る施設の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸軍防空学校の図面には、敷地内に「化学戦資材庫」が存在していたことが示されている〔 A 1 〕。 ・陸軍防空学校の図面には、敷地内に「化学戦資材庫」及び「特殊弾丸庫」が存在していたことが示されている〔 A 2 〕。 <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸軍防空学校跡地（南側）には、大学関連施設、千葉県の施設、千葉市の施設、民間会社職員宿舎や団地等が建設されており、同跡地（北側）には千葉市の施設及び一般住宅が建設されている〔 A 1 〕。 ・陸軍防空学校跡地（南側）では、建物建設に際して試掘調査を実施している場所が存在する〔 A 1 〕。 ・平成 1 6 年に、旧陸軍防空学校跡地において、公務員宿舎建替えに伴い地中障害物確認調査を行ったが、危険物は確認されなかった〔 A 3 〕。 ・平成 1 6 年 1 1 月に環境省が実施した 2 4 ヶ所の地下水調査の結果、毒ガス成分は検出されなかった〔 A 4 〕。
--------------	--

事案名	千葉市内の事案（千葉県 12 - 6 - 3）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>昭和45年12月4日に、千葉市でイペリットとシアン化合物アンプル100本が発見され、海中投棄されたとの情報がある。</p> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和45年12月4日に、千葉市でイペリットとシアン化合物アンプル100本が発見され、海中投棄したと記載されている〔1〕。